

ヤーズフレックス配合錠 処方簡易マニュアル

監修:愛知医科大学 産婦人科学講座 教授 若槻 明彦

処方時・処方後の検査

	処方時	服用開始 1・2・3か月後	服用開始 6か月後および 以降6か月ごと	服用開始 1年後および 以降1年ごと
問診				
●処方時チェックシート	✓			
●禁忌・慎重投与 対象か否かの確認	✓			
●処方時チェックシート 記載内容に基づき確認		✓	✓	✓
必須検査				
●血圧測定	✓	✓	✓	✓
●体重測定 ¹⁾	✓			✓
●月経困難症をもつ女性に対してはその原因の検索	✓			

上記測定・問診内容から
必要に応じて行う検査(任意検査)

●血栓症のリスクが高い時には血液凝固系検査	✓ 2)		✓ 5)	
●子宮頸部細胞診	✓		✓	
●性感染症検査	✓		✓	
●乳房検診 ³⁾	✓		✓	
●超音波検査 ⁴⁾	✓		✓	
●血算/生化学検査	✓ 6)		✓	

服用に関しての注意事項の説明

●服用方法と飲み忘れた際の対応	
●副作用の説明(血栓)	
●副効用の説明	
●定期的な検診	

1)身長、体重からBMIをチェックする 2)Dダイマー、プロテインS活性など
 3)処方開始時および開始後6か月ごとの自己検診でもよいが、乳癌の家族歴がある場合には1年ごとの、腫瘍を触れる場合には適宜、乳腺超音波検査またはマンモグラフィーによる画像診断が望ましい。
 4)器質的疾患を伴う月経困難症患者では、定期的に内診および超音波検査等を実施して、器質的疾患の増悪の有無を確認する。 5)Dダイマーなど
 6)患者からの希望があった場合、あるいは必要に応じて実施する。

OC・LEPガイドライン2015年度版 編集・監修:日本産科婦人科学会より作成

飲み忘れた
場合の対応

万一前日の飲み忘れに気付いた場合、直ちに前日の飲み忘れた錠剤を服用し、当日の錠剤も通常の服薬時刻に服用する。2日以上服薬を忘れた場合は、気付いた時点で前日分の1錠を服用し、当日の錠剤も通常の服薬時刻に服用し、その後は当初の服薬スケジュールどおり服用を継続すること。

OC/LEPガイドライン 動静脈血栓塞栓症関連CQ

CQ501

VTEリスクの説明は?

Answer

- VTE発症リスクが高くなる。
- VTE発症頻度は3~9人/10,000婦人・年間である。

CQ502

VTEリスクが高い症例への説明は?

Answer

- 肥満、高齢、喫煙者の服用はVTEリスクを上昇させる。
- VTE家族歴のある女性の服用はVTEリスクを上昇させる。
- 服用中の長期間の不動状態や手術はVTEリスクを上昇させる。

CQ503

ATEリスクが高い症例への説明は?

Answer

- 高血圧、喫煙女性の服用は心筋梗塞リスクを上昇させる。
- 高血圧、片頭痛を有する女性の服用は脳卒中リスクを上昇させる。

CQ504

服用中止後再開したときのVTEリスクの説明は?

Answer

- VTEの発症は服用開始後3か月以内が最も多く、その後減少するが、非服用者よりもいまだVTEリスクは高い。
- 4週間以上の休薬期間をおき、再度服用を開始すると、開始後数か月間はVTEの高い発症リスクを再びもたらす。

表1 服用中止を考慮すべき症状

疑われる疾患	症状
1 深部静脈血栓症	片側または両側の下肢(特にふくらはぎ)の痛みと浮腫
2 心筋梗塞、狭心症	胸痛、胸内苦悶、左腕・頸部等の激痛
3 肺塞栓	呼吸困難(突然の息切れ)、胸痛、喀血
4 出血性・血栓性脳卒中	突然の激しい頭痛、持続性の頭痛(片頭痛)、失神、片麻痺、言語のもつれ、意識障害
5 脳静脈血栓症	頭痛、痙攣、恶心嘔吐、意識障害
6 網膜動脈血栓症	視野の消失、眼瞼下垂、二重視、乳頭浮腫
7 うつ滞性黄疸、肝障害	黄疸の出現、搔痒感、疲労、食欲不振
8 肝腫瘍	肝臓の腫大、疼痛
9 ホルモン依存性副作用、消化器系疾患	長期の恶心、嘔吐
10 性器癌	原因不明の異常性器出血

表2 服用中止を考慮すべき他覚所見、検査所見

1 血圧の上昇 (収縮期160mmHg以上または 拡張期100mmHg以上)
2 体重の急激な増加
3 乳房腫瘍の出現
4 子宮の增大
5 性器癌検査の異常
6 出血凝固系検査の異常
7 AST(GOT)、ALT(GPT)の異常上昇
8 高度貧血の出現
9 血中脂質の異常上昇

VTE発症の際の症状“ACHES(エークス)”とは…

- A_abdominal pain(激しい腹痛) : 下大静脈や腸間膜静脈の血栓を疑う。
 C_chest pain(激しい胸痛、息苦しさ、押しつぶされるような痛み) : 急性肺塞栓症と診断された症例の90%は呼吸困難、胸痛が主要症状であり、診断の手がかりとして重要である。
 H_headache(激しい頭痛) : 脳の中心静脈洞血栓などを疑う(ATEでも起こり得る)。
 E_eye/speech problems(見えにくい所がある、視野が狭い、舌のもつれ、失神、けいれん、意識障害) : 脳に血栓を来たした場合、視力障害や言語障害を伴う。
 S_severe leg pain(ふくらはぎの痛み、むくみ、押すと痛い、赤くなっている) : 下肢のDVTの症状は、患者下肢の下肢静脈に沿った片側腫脹、熱感増加や皮膚の発赤、立位または歩行時に感じる下肢疼痛・圧痛である。

